

これが私の「スタンダード」

—私の授業を支える言葉—



令和4年8月

福島県教育庁県北教育事務所



目 次

◇ はじめに	1
◇ ー私の授業を支える言葉ー	2
1 授業の基盤はー	
○ 主体的な学習を支える基盤づくり	4
○ すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために ～ユニバーサルデザインの視点から～	6
2 授業前にー	
ポイント1	
単元をつくる・本時の授業をつくる	10
3 授業ではー	
子どもたちの資質・能力の育成を目指す授業づくり	
ポイント2	
教材との出会い・学習課題の把握	12
ポイント3	
追究・解決<計画・方向付け・見通し><個での追究・解決>	16
ポイント4	
追究・解決<ペアやグループ・学級全体での話合い>	18
ポイント5	
まとめ 振り返り・新たな学び	20
4 授業後にー	
「自己マネジメント力」の育成を目指す家庭学習	
○ ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用について	22
○ 教員の学び合い	24
5 教師として身に付けたい指導技術	
○ 板書・ノート指導	26
○ 机間指導	28
○ 発問	30
◇ ーこれが私のスタンダードー	32
〈資料編〉	
○ 指導案は「単元づくり・授業づくり」の設計図	
○ 私の授業レシピシート・私の授業レシピシート解説	
○ 私の授業プラス日記	
〈付録〉	
○ 私の授業を支える時間ータイムマネジメントー	
○ ー私が選ぶ「私の授業を支える言葉」ー	
◇ 私の授業を支える言葉集（索引）	

『授業スタンダード』に基づく授業づくりについて、5つのポイントとして示しています。

- 『授業スタンダード』 P 1 (ポイント1)、P 3 (ポイント2)
- P 4 (ポイント3)、P 5 (ポイント3)
- P 6 (ポイント5)



はじめに

いくつ答えられますか？ (☑チェックをしてみましょう。)

Q. 「単元の全体構想」が大切だと言われます。
どうして大切なのですか？

Q. 「ゴールからの授業構想」とよく耳にします。
ゴールから構想するメリットはどんなことですか？

Q. 「自力解決」になかなか入れません。
どのように見通しをもたせればいいのか？

Q. 机間指導では子どもの何を見取るのですか？
ICTを使う見取りもできるのですか？

Q. 「話し合い」が「発表」だけで終わってしまうことがあります。
どんなところに気を付ければいいのか？

Q. 「まとめ」につなげる「吟味」(練り上げ)は、
どのように進めていけばいいのか？

Q. 「まとめ」と「振り返り」は違うのですか？
それぞれにどんなねらいがあるのか知りたいです。



この冊子にあなたの授業を支える
ヒントがあるかもしれません。

あなたの「知りたい」が
きっとここにあります。



わかば先生
今年度採用になった
初任の先生です。



きづき先生
教職2年目で、わかば
先生の先輩です。



あゆみ先生
子どもとつくる授業に、
熱い思いを傾け続けるベ
テランの先生です。

－私の授業を支える言葉－



わかば先生

「主体的・対話的で深い学び」のある授業へと改善したいのですが、どこから始めるとよいのですか。



あゆみ先生

ふくしまの「授業スタンダード」から始めてみませんか。あなたの授業を支える「言葉」に、きっと出会えます。

ふくしまの「授業スタンダード」を基に授業のプラスを増やし、
子どもの資質・能力を育む

目的

子どもたちがこれからの時代に必要とされる資質・能力を身に付けて、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする。



方法

主体的・対話的で深い学び

授業



基盤

望ましい人間関係
教師の姿勢
学習規律



ふくしまの「授業スタンダード」の中で、最も心に響いている言葉を教えてほしいな。理由も聞きたいな。

教室に向かう途中で

よし、授業を頑張るぞ！

今日の授業で、子どもたちはどんな顔をするか、楽しみだなあ。

話し過ぎずに、問い返して考えを引き出したり共有させたりする機会を意図的につくっていこう。

Kさんに理解させるために、〇〇と助言をしてみよう。

Y男さんの考えを聞かせたいな。

よさを見取って



今、最も心に響いている言葉は、「よさを見取って」です。私はつい話し過ぎてしまいます。子ども一人一人の「よさや思い」を受け止めて、子どもが主役となる授業にしたいと思っているからです！





わかば先生は、子どもが
主役となる授業をつくりたい
のですね！
「よさを見取って」とい
う言葉が、わかば先生の授
業を支えているのですね。

あゆみ先生のお
気に入りの言葉は
何ですか？



私は、2ページにある
「教育の秘訣は、生徒を
尊敬するところにある」
というエマーソンの言葉
が、心に響いています。

どうしてその言
葉が気に入ってい
るのですか？

**生徒を
尊敬**



わかば先生、子どもたちってすご
いんですよ。私の想定している考え
を、どんどん超えていってくん
です。子どもたちから教えられること
も、たくさんあります。

私は、「生徒を尊敬」という言葉
に支えられています！

教育の秘訣は、
生徒を尊敬する
ところにある。
(エマーソン)

教師の姿勢



大丈夫ですよ！
『授業スタンダード』
の言葉に着目すること
で、新たな発見がある
はずです！！

あゆみ先生にもわか
ば先生にも、「お気に
入りの言葉」が…。



きづき先生



**言葉に
着目！**

さあ、自分の授業を支える
「言葉」を、見つけよう！！



1 授業の基盤は

主体的な学習を支える基盤づくり

授業の基盤をつくるため、どのようなことに気を付ければよいでしょうか？



授業の基盤は

望ましい人間関係

教育の秘訣は、生徒を尊敬するところにある。(エマーソン)

普通の学校生活全般において、教師と子ども、子ども同士の「望ましい人間関係」を築いていくことが大切です。

- 個に応じた言葉かけをする。
- 子どもたちを具体的に褒める。
- 子ども一人一人に目を配る。
- 違いを認め、尊重する。
- 助け合い、支え合う。
- 「自己有用感」を育てる。

学習集団づくり

教師の姿勢

「教育は人なり」と言われるように、最大の教育環境は、私たち教師です。

- 明るく、表情豊かである。
- 子どもの人権を尊重し、適切な言動に努める。
- 分かりやすく、明確な指示・発問をする。
- 子どもの立ち位置を工夫する。
- ユニバーサルデザインに心がける。
- 授業デザインの視点を取り入れた授業づくりに取り組む。
- 授業の開始・終業の時刻を守る。

学習規律

学習規律について、発達の段階を踏まえて共通実践をすることが大切です。

- 学習に臨む心構えや約束事を指導する。
 - ・ 宿題や学習用具を忘れない。
 - ・ 始業前に学習用具を準備する。
 - ・ 指名されたら返事をする。
 - ・ 1分前着席をする。 など
- よい話し手、よい聞き手を育てる。
 - ・ 相手意識や目的意識をもつ。
 - ・ 声の大きさ、速さ、目線に気を付けて話す。
 - ・ 話をしている人を見て共感的な態度で聞く。
 - ・ 必要なことはメモをとる。 など

授業づくりは、子どもを中心に考えます。「授業の充実が、望ましい人間関係の形成やよりよい学級づくりにつながる」とも言えますね。



学習集団を育むために…



福島県教育委員会から出された重点には、このように書かれています。



3 資質・能力の育成を支える基盤づくり(P6)

- 教師自身の言語環境を整え、明確な指示などの指導技術を高めるとともに、発達段階に応じた聞き方や話し合いの仕方を習得させ、認め合い、磨き合い、高め合う学習集団をつくる。

子どもは、何を認めてほしいのですか？

結果や成果だけでなく、そこに至るまでのプロセスにおける努力の様子です。その様子を教師がしっかりと把握し、「心の成長」を認めていくことが、子どもの「またがんばりたい！」という意欲の高まりにつながります。

「子どもを認める」
ために普段から気を
付けることはありま
すか？



なんと言っても子ども理解です。
「よいところノート」などを作成して、日頃の
関わりや観察から捉えた子どもの情報(興味・関心
や得意なこと、活躍の姿など)を記録していくことが
有効です。子ども一人一人に対して**同じ距離感で
接する**ことは教師として大切にしたい姿勢です。



学力調査の聞き取りでも、学級づくりと学力向上との間には
相関があるようです。

「授業」と「学級づくり」は両輪です。

<ふくしま学力調査において伸びの大きかった学校への聞き取りから>

一緒に解決する「話し合い」

- 子ども同士で解決させる時間を取る。
- 最初から、相手を批判しないで耳を傾けることを大事にする。
※ 特活の特に、学級活動(1)の経験が生かされている。
- 友達の考えは「自分の考えを深めてくれるもの」という意識をもつ。(進んで意見を求める姿を育てる)
※ 「一緒に分かっていこう」という思いを高める。
- 分からないことが言え、安心して友達に説明できる。
※ 自分の考えを、再構築していくことができる。



確かに互いに認め
合える学級集団って、
とても素敵ですね。

大切なのは「**学級づくりを基盤にした授業づくり**」と「**授業を通した学級づくり**」



でも、実際に、どの
ように認めるのがよ
いのでしょうか？
効果的な方法など
はありますか？

直接言葉で認める以外にも…。

- ・ 作品や生活ノートなどに一言コメントを書く
 - ・ 成長の様子を保護者や他の教師に伝える
 - ・ 学級通信やHPなどを活用して発信する など
- 教師だけではなく、多くの人から称賛されるように工夫することも、子どもの**自己肯定感**を高める上で有効です。

よく
できました!



一人一人をつなぎ、協働的に学
ぶよさを感じ取らせながら、集団
としての質を高めていくことも大
切にしていきたいですね。

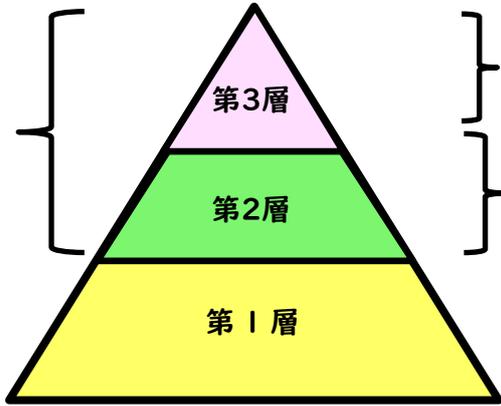


すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために
～ユニバーサルデザインの視点から～



通常の学級にも、学びや学校生活に困難さを感じながら過ごしている子どもたちがいます。どうすればよいのでしょうか？

合理的配慮の階層



・個別の指導の場で個別の支援の工夫
・通級指導教室 等

・一斉指導中に行う個別の指導・支援の工夫

・集団全体への指導(指導の工夫)
ユニバーサルデザイン

すべての子どもにとって分かりやすいユニバーサルデザインの視点で学級全体を支援し、見通しをもって安心して学び、生活できる環境づくりを行います。その上で、特別な支援が必要な子どもに個別の支援を行います。これらを学校全体で共有し、取り組むことが重要です。



高めよう！ 自己有用感！ 自己肯定感！ 学級全体を支援するユニバーサルデザイン



「すべての子どもにとって分かりやすいユニバーサルデザインの視点で学級全体を支援」って大変そう、どうしたらいいのですか？

ユニバーサルデザイン化のコツの3本柱、先生きっとやっていますよ。キーワードを挙げてみましょう。



学習環境を整えましょう!(教室のルールを整えましょう)

- 1 ルールのある空間でみんなが快適に生活するための環境づくり
- 2 暗黙のルールなど、目に見えないものを見えるように

決まりやルールを「見える化(可視化)」し、自治的で、子どもたちが安心して過ごすことができる教室環境づくりが大切です。



- 基準が明確で分かりやすい学級ルールをつくる。
- 黒板や黒板周りにはその授業に関係するもののみ掲示する。
- 板書を構造化する。(チョークの色使いの統一、学習の流れを示すなど)
- 刺激になるものをカーテンや布で覆う。
- 予定を変更する場合は必ず予告する。(変更となった活動はいつ行うのかも伝える。)





分かりやすく伝えましょう!(授業のユニバーサルデザイン化)

- 1 視覚化=学習内容や考え方・資料等を図解や画像などの視覚情報として示す
- 2 焦点化=学習目標や内容を絞り込んで授業展開の構造をシンプルに
- 3 共有化=話し合い活動などで学ぶ内容を互いに共有して確実な定着

「分かった・できた」を目指す授業デザイン。ふくしまの「授業スタンダード」にもあるいつもの授業です。



「構造化された板書」「思考過程の可視化」も「授業スタンダード」にありました。分かりやすい発問や指示も大切だと聞きました。見通しがもてると安心して活動できますね。



- 「大事なことを一度だけ言います。」など、子どもの注意を引きつけてから話す。
- 指示は短く、具体的に伝える。
- 重要なことは、板書する。
- 絵や図、文字などを用いて指示内容や順序を可視化し、見通しがもてるようにする。
- 教師の視線、しぐさ、声の大きさやトーンを変化させるなど、子どもへの伝わりやすさを考える。

ユニバーサル
デザイン化の
コツ



称賛し、認めましょう!(人的環境を整えましょう)

- 1 多様性を認めるかわかり
- 2 子どもたちの誤答をいかに価値付けるか、間違いに共感できるか
- 3 子ども「いいところ」が発揮されやすい環境づくり

クラスに温かい雰囲気をつくることは、「分からない、できない」と素直に言える環境づくりにつながります。



私が子ども一人一人のよさに気付き、「認めているよ」「分かっているよ」という姿を見せることが大切なのです。「誤答の価値付け」も、「授業スタンダード」にありました。



- 得意なこと、興味・関心があることに注目する。
- よさや得意なことを生かし、人の役に立った、人に喜んでもらえた等の経験ができるようにする。
- 頑張りを認め、当たりまえのことを自然に行っている子どもへの称賛を忘れない。
- 子どもや行動に応じた効果的な褒め方を探す。
※ 他人への迷惑行為などには、毅然とした態度で接することが大切です。

ユニバーサル
デザイン化の
コツ



いつものかわりや授業に、「ユニバーサルデザイン化のコツ」をちょっと意識して取り組むことで、今まで以上に子どもたちが見通しをもって、安心して学び、生活できるようになります。学級全体への支援と個別の支援をバランスよく行い、すべての子どものよさや可能性を引き出すことで、子ども一人一人の自己有用感、自己肯定感をよりよく育てていきましょう!



学びの困難さに応じた指導の工夫！



学びにくさに応じた工夫には、どんなものがあるのでしょうか？
詳しく知りたいのですが、何か参考になるものはありますか？

小・中学校学習指導要領解説各教科編には、「10の視点」で困難さを見取り、それに応じた指導内容や指導方法の工夫が示されています。



◇ 困難さ【10の視点】

- | | | |
|-------------------|---------------|----------------|
| ① 見えにくさ | ② 聞こえにくさ | ③ 道具の操作の困難さ |
| ④ 移動上の制約 | ⑤ 健康面や安全面での制約 | ⑥ 発音のしにくさ |
| ⑦ 心理的な不安定 | ⑧ 人間関係形成の困難さ | ⑨ 読み書きや計算等の困難さ |
| ⑩ 注意の集中を持続することが苦手 | | |

※この視点以外にも、様々な困難さが考えられることにも留意が必要です。

教科の配慮例(国語)



Aさんは、一行とばして読んでしまうことが多いな。どんな「困難さ」があるのだろう？
【10の視点】からすると、①・⑨・⑩かな？

教科書がうまく読めないよ。



Aさんは行を追って読むことが難しいのかな。工夫の意図・手立てに書いてあるように、教科書を拡大コピーして、読む行に定規を当てて読むようにしてみよう！

【小学校 国語の配慮例】

1 文章を目で追いながら音読することが困難な場合

【10の視点^{*1}】から予想される困難さ

〔例〕 ①見えにくさ ⑨読み書きや計算等の困難さ ⑩注意の集中を持続することが苦手

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

自分がどこを読むのかが分かるように教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと、行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用することなどの配慮をする。



文字が大きくて、見やすいな！
定規を当てているから、どこを読めばいいか分かりやすくなった！

教科の配慮例(体育)

勝敗がかかると、いつもモヤモヤ、イライラしちゃう。



Bさんは、勝つまでやりたいと言うことが多いな。どんな「困難さ」があるのだろう？



【10の視点】からすると、⑦・⑧かな？

【小学校 体育の配慮例】

1 複雑な動きをしたり、バランスを取ったりすることに困難がある場合

【10の視点*】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ *ボディイメージの把握の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

極度の不器用さや動きを組み立てることへの苦しさがあることが考えられることから、動きを細分化して指導したり、適切に補助しながら行ったりするなどの配慮をする。



2 勝ち負けにこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ⑦心理的な不安定 ⑧人間関係形成の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

活動の見通しがもてなかったり、考えたことや思ったことをすぐに行動に移してしまったりすることがあることから、活動の見通しを立ててから活動させたり、勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認したりするなどの配慮をする。



Bさんは、どのように行動したらいいのか分からないのかも。工夫の意図・手立てに書いてあるように、勝ったとき、負けたときの表現方法をみんなで確認しよう。そして、見通しがもちやすい簡易ゲームでよい行動の成功体験ができるようにしてみよう。



みんなと同じようにやってみたら、先生にも、友達にも褒められて、気持ちよくゲームに参加できたよ。



10の視点で子どもを見ることは参考になります。しかし、障がいや程度で対応は一律ではありません。子ども一人一人の実態から考えることが大切だということが分かりました。



学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行わないで、指導や手立てを工夫していくことが大切です。

特別支援教育センターHP掲載の「コーディネートハンドブック」には、学習指導要領各教科解説編に対応した具体的な実践事例が、教科ごとに示されています。



障がいのある児童生徒などへの配慮
～学習指導要領編～

困難さに対する個別の支援内容については、「学習指導要領解説 自立活動編」などを参考に検討した上で、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」に盛り込みます。

担当する先生方で共有、活用し、進級、進学時には適切に引き継ぐようにしましょう。「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の計画の様式や作り方は、特別支援教育センターHP掲載の「コーディネートハンドブック」を参考にしてください。



(1) 個別の教育支援計画とは
～なぜ、作成・活用するのか～



(2) 個別の教育支援計画の活用
～いつ活用するのか？
どうやって活用するのか？～



(1) 個別の指導計画とは
～なぜ、作成するのか、
どう作成するのか～



(2) 個別の指導計画の活用
～いつ、活用するのか？
目的にあった計画の活用へ～

2 授業前に一

ポイント1 単元をつくる・本時の授業をつくる



明日の授業を考えるので精一杯です。1時間でも大変なのに…。
「単元をつくる」ときに、何から考えればいいのですか。

単元をつくる

目標を捉

- 教科の目標
- 教科等の特質に応じた「見方・考え方」
- 評価観点ごとの目標設定

教材の価値を把握する

- 主たる教材である教科書の内容の検閲・吟味
- 教材の教育的価値
- 教材に内在する基礎的・基本的な学習内容
- 教材の系統性（同一学年、他学年、他科種との関連）
- 教科等横断的な視点

子どもの実態を把握する

- 子ども一人一人のよさ
- 学習への興味・関心、生活経験の有無、既習事項の定着度
- 評価の観点から見た実態
- 想定されるつまずき
- 調査や観察などによって把握した動向

全体を見通した **重点(軽重)**

まずは、単元のゴールから考えてみませんか。
単元のねらいが達成された子どもの姿を、具体的に描いてみましょう。



全体を見通した

単元のゴールの姿へ向かう全体を見通した単元づくり

単元名 円の面積の求め方を考えよう「円の面積」(第6学年)

単元の目標

- 円の面積について、求め方や計算で求められることができる。
- 図形を構成する要素などに着目し、円などの面積の求め方を考えることができる。
- 多様な方法で円を含む複合同形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明することができる。

指導

- ①単元全体の中での本時ほどのような位置付けになっているのかな？
- ②前時との違いは何かかな？

〈全体を見通して〉

①単元全体の中での本時ほどのような位置付けになっているのかな？
②前時との違いは何かかな？

〈全体を見通して〉

どの資質・能力を、主にどこで育成していくのか。
・ = 指導に生かす評価
○ = 記録に残す評価

重点(軽重)

学習活動	知	思	態	評価規準(評価方法)
1. 円のおよその面積を求め、その面積の見当をつけることができる。				・ 円のおよその面積を、単位面積の何こ分の考えや円に外接、内接する正多角形を基にして求めようとしている。(観察・ノート)
2. 円のおよその面積を求め、その面積の求め方に着目し、円のおよその面積を求める方法を見つけることができる。				・ 円のおよその面積の求め方に着目し、円の面積を求める方法を考えている。(観察・ノート)
3. 円の面積を求める公式を求めたり、半径×半径に着目し、円周率の理解を取り、円周率について解を深めることができる。		○		○ 円の面積も、計算で求められることを理解している。(観察・ノート)
4. 多様な方法で円を含む複合同形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明することができる。			○	○ 円を含む複合同形の面積について、既習の求積可能な図形の面積を基にして、分割して考え、図や式を用いて説明している。(観察・ノート)
5. 単元の学習を通して、円を含む複合同形の問題を、円を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決することができる。			○	○ 学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。(観察・ノート)
6. 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付けることができる。				○ 単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。(観察・ノート)

円のおよその面積

円の正確な面積

円を含む複合同形の面積

適用問題

そのためには…

〈この単元におけるねらいが達成されたゴール地点での子どもの姿は？〉

- 私が描く単元のゴールにおける子どもの姿
円を含む複合同形の面積を考える時に、求積が既習である図形の組み合わせと見て、多様な考え方で面積の求め方を考えたり、説明したりすることができる姿



単元全体を構想することができました。
1時間ごとの授業をつくる際には、どんなことに気を付けたらよいですか。



本時が、単元全体の中で、どんな役割を果たすべきなのかについて考えることが大切です！



位置付け

「単元における本時の位置付け」に着目した授業づくり

指導計画	ねらい	学習活動	知	思	態	評価規準（評価方法）
2	円のおよその面積	正多角形の面積の求め方に着目し、円の面積を求める方法を考える。				円のおよその面積の求め方に着目し、円の面積を求める方法を考えている。（観察・ノート）
3	円の正確な面積	円の面積の求め方を学び、求めたりする。				円の面積も、計算で求められることを理解している。（観察・ノート）
4 (本時)	円を含む複合図形の面積	多様な方法で円を含む複合図形の面積を求め、求め方を説明する。				円を含む複合図形の面積について、既習の求積可能な図形の面積図や図を用いて説明する。（観察・ノート）
5	適用問題	ピザ作りに関わる問題を、円を含む複合図形の面積の求め方を活用して解決する。				学習内容を適切に活用して問題を解決している。（観察・ノート）

①本時は、単元全体の中でどのような位置付けになっているのかな？



〈着眼点〉
並べ替える

並べ替えても求められない！

〈着眼点〉
組み合わせる

②前時との違いを明確にしておくことが大切です。

具体的な姿

本時で目指すゴールの姿へ向かう授業づくり

本時においても、ねらいが達成された「具体的な子どもの姿」を具体的に捉えておくことが大切です。



○本時のねらい 円を含む複合図形の面積の求め方について、既習の求積可能な図形を基に考え、説明することができる。

○ 私が描く本時のゴールにおける子どもの姿
並べ替えても面積を求められない円を含む複合図形を、既習の求積可能な図形の組み合わせと見て、面積の求め方を考え、説明することができる



単元づくりも授業づくりも、「ねらいが達成されたゴール地点での子どもの姿」を具体的に描くことから始めていくことが大切なのですね！

でも…。その姿を明確に描くことが難しく、一人では上手くできません。



わかば先生、大丈夫ですよ。一人ではありません。いつでも相談してくださいね！一緒に考えましょう。



3 授業では

ポイント2 教材との出会い・学習課題の把握

課題提示をしても、子どもたちの学習意欲につながらないことが多いのです。



「問い」や「思い・願い」を引き出すために

- 具体物を提示しましょう。
 - ・ 写真や図表、動画、楽譜、絵、デジタル教科書
 - ・ 資料の段階的な提示
 - ・ 複数の資料の比較・対比 など
- 既習事項を振り返りましょう。
 - ・ 前時までのノートや掲示物 など
- 実演を取り入れましょう。
 - ・ 教師による実験などの実演・演示
 - ・ 子ども自身が試す活動 など
- 子どもとの対話を大切にしましょう。
 - ・ 生活経験や既習事項を想起させる対話 など



「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために

- 引き出した「問い」や「思い・願い」を基に、子どもの気付きや発言などをつないで「**焦点化**」し、学習課題（めあて、課題）を設定しましょう。（導入は、短時間で）
- ※ 教師から課題を提示する場合でも、学習への興味・関心や追究・解決への意欲を高め、学習課題を自分のものとして捉えられるようにすることが大切です。

<学習課題の条件>

- 子どもの実態に即している。
- 子どもにとって身近で分かりやすい表現になっている。
- 学習への興味・関心を高めることができる。
- 適度な難易度で、解決への見通しをもつことができる。
- 多様な捉え方や解法などを引き出すことができる。
- 子どもにとって追究・解決する価値がある。



「学習したい!」という子どもの気持ちを高めることが大切なのですね!



原動力

子どもの気付きや問いを引き出すしかけを考えていくことで、授業が動き始めます。



「教材との出会い」が引き出す「主体的な学び」

- 教材との出会わせ方を工夫し、興味・関心を高め、「問い」や「思い・願い」を引き出します。
 - ・ 「問い」→子どもが「～かな?」と思うこと
 - ・ 「思い・願い」→子どもが「～したい」と思うこと
- これらは「主体的な学び」への「**原動力**」であり、自ら課題を見いだそうとする態度を育むことに繋がります。

原動力



②子どもの「問い」や「思い・願い」

①教材との出会わせ方

何を
どんな風に
どのタイミングで
提示するかが大切です。

- ・ 実物
- ・ ICT
- ・ 既習事項
- ・ 実演
- ・ 前時の感想

・ 違和感
・ 驚き
・ 不思議
・ 憧れ
などから「？」を引き出していきます。



なぜ? 不思議だな。え? どうしてなの?

考えてみたい!

解いてみたい!

これって、どういうこと? 調べてみたい!

おもしろい! やってみたい!

「学ばせたい」「学びたい」の擦り合わせを図るポイントです。

③学習課題の設定

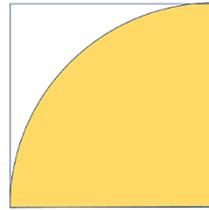


学びスイッチオン!

導入(既習)

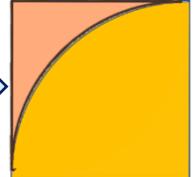
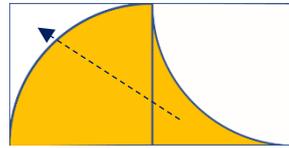
あっ！
前の時間に勉強したものです。

公式はなかったけど、
円の公式を使えば、半分
にしたり、4つに分けたり
すれば求められました。
変な形のものでも、移
動して正方形にすれば、
公式を使って求めること
ができました。



円の公式 ÷ 4

正方形の公式



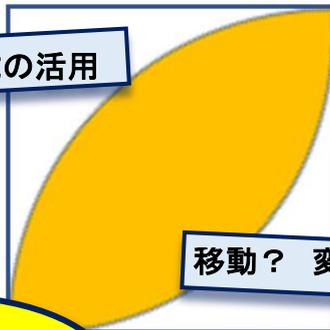
「並べ替え」で面積を求めることができる

予想

ん？
今日も変な形です。
(共通点)

前と同じように「並べ替え」れば
できるんじゃないんですか？
(予想)

円の公式の活用

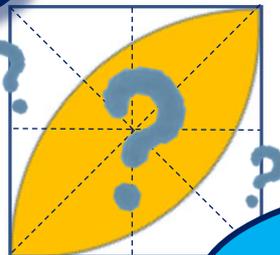


移動？ 変形？

予想外

悩み
(モヤモヤ)

えっ？
このレモンの形は切っても、
移動させても、全然、円になり
ません。正方形も作れません。
1つの形だけで考えていて
は、答えが出せません。



必要感

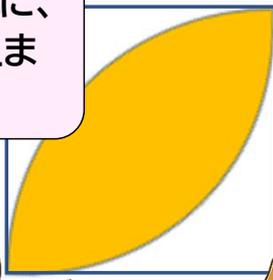
あれ？ 並べ替えても求められない…

【学習課題】 並べ替えても求められない図形の面積は、どのようにすると求められるかな？

気づき

レモンの形の他に、
何か別の形が見えま
せんか？

正方形が見えて、円が
見えて…。
この白い部分が邪魔
だから、どうにか出せる
といいのだけれど…。
あれっ…？



あ———！

こんな風に、子どもた
ちが考えていけたらいい
と思わない？

すごくいいですね。

子どもたちの問いや思い・願いを、どのように学習課題にしていければいいのですか？

焦点化

主体的な学びを引き出すために

授業を「手品」に例えて考えてみましょう。

提示場面では、子どもの興味・関心を引き出せるかが勝負です。

本時の「見方・考え方」につながるよう、子どもとのやり取りの中で焦点を絞っていくようにします。



驚き

えっ？ すごい！
どうして鳥が出てきたんですか？

帽子にタネがあるのかもしれない。知りたいです。

予想

たぶん〇〇のしかけがあると思うけど…。

もう一度見たいです。タネを見抜きたいです。

憧れ

ぼくもあんな風にやってみよう。

子どもの「問い」や「思い・願い」

「問い」や「予想」をセットにする「こと」で、本時の学びに対する主体性や自己の変容を促せる「こと」ができます。

これを学習課題に取り上げると、「〜」ができる「〜」という技能の観点を目標とする授業となります。

焦点化

身に付けさせたい力・育てたい力

働かせたい「見方・考え方」

3つの観点(「知・技」「思・判・表」「学びに向かう力」)

どこに着目させるか

本時で一番考えさせたいこと

これを各教科等に当てはめたら、どんな授業が考えられるでしょう？

教師が押さえておかなければならない「こと」

学習課題の設定はいかに？

事後研究会での1コマ

ならべかえても求められない図形の面積は、どのようにすると求められるかな。



レモンの形

ならべかえても求められない

一つの公式では求められない

レモンの形の他に、どんな形が見えるかな。

4分の1の円

直角三角形

正方形

組み合わせ

全部教師作成のカード

わかば先生、私は「考えさせたいこと」や、「子どもが考えそうなこと」をあらかじめ予想して、カードを作っておきます。黒板に書く時間が短縮されて、オススメですよ！



確かに…。でも、カードがいっぱいになると、どこが大切なのか分からなくなってしまうそう。

きづき先生が、「学習課題」の紙を黒板に貼ったとき、「**決まってるんじゃない。**」とつぶやいた子がいました。

きづき先生、「学習課題」は、いつも紙に書いたものを提示しているのですか？

教師が「学ばせたいこと」 > 子どもが「学びたいこと」に、なっていませんか？

あれっ？

学習課題も、あらかじめ書いたものを提示していましたが…。

きづき先生は、どんな子どもに育ててほしいと思っていますか？

教師が用意するカードが多くなればなるほど、子どもが活躍できる場面が少なくなると思いませんか？

私は、主体的に学ぶ子どもになってほしいと思っています。最近、「学習課題」を設定した後、子どもの追究意欲が下がっているように感じていたのは、「**教師が与える学習課題**」になっていたからかもしれません…。

学習課題を、本気で追究したいと思う「**子ども自身の問い**」にすることが、大切なのですね。

あゆみ先生！「**授業は子どもの問いでできている**」のですね！



ポイント3 追究・解決

<計画・方向付け・見通し> <個での追究・解決>

学習課題を設定しても、子どもが困る場面をよく見かけます。
どんな働きかけをすれば、よいのでしょうか？



<計画・方向付け・見通し> 追究・解決の方向付けを見つけてさせるために	<個での追究・解決> 自分の思いや考えをもてるようにするために
<p>見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題や既習事項を関連付け「何を、どのように考えているか」などについて見通しをもたせましょう。 <結果の見通し> <ul style="list-style-type: none"> ○ 結果を予想する。 ○ 仮説を立て、検証を繰り返す。 ○ 作業の完了を構想する。 など <方法の見通し> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに学んだ知識やスキルをどう使うかは何か。 ○ どういった道具や材料を使うか。 ○ どういった手順で行うか。 など <p>○ 子ども一人一人が計画や見通しをもてたか見取りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の発言やノートの記述内容、聞き取り ・ ペアやグループでの話し合いの様子 など <p>○ 困っている子どもに寄り添い、全員が「追究・解決したい」という思いをもてるよう支援しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが「何を、どのように考えているか」を見取り、個に応じた支援をしましょう。 ・ 個の学びに応じた助言や称賛 ・ 見通しや計画の記入 ・ 作業の進捗や作品の提示 など ○ 展開を構想しながら、その後の展開を見取りましょう。 ・ 見通しや計画をどう修正するか。 ・ どのような順序で取り上げるか。 など <p>※ T Tの授業では、役割分担をして効率的に見取りましょう。見取った子どもなどについて情報交換し、その後の展開に活用することが大切です。</p>

③ 学習課題・見通し

この色をぬった部分の面積は何cm²かな？

ぜんぜん分からないな。

レモンの形？公式ないよね。

今日のめあては何になるでしょう？

〔学習課題〕 並べ替えても求められない図形の面積は、どのようにすると求められるかな？

見通し

ここまでは、できるのですが…。
めあてをもたせた後、解決の見通しをどのようにもたせればよいのですか？

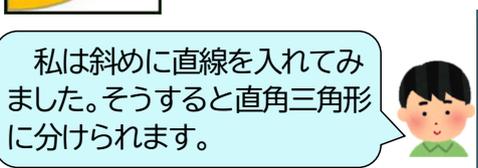
課題解決の見通しをもたせるためには？

【本時で働かせたい見方・考え方】
既習の図形 組み合わせ

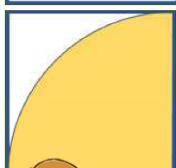
レモンの形の中に何か別の形が見えませんか？



正方形が見えます。正方形の中にレモンが入っています。



私は斜めに直線を入れました。そうすると直角三角形に分けられます。



レモンの下のすき間に色を塗ると、4分の1の円に見えます。

正方形、三角形、4分の1の円から、色を塗った部分の面積を求めるアイデアはないかな？

全員が「追究・解決したい」という思いをもてるようにすることが、大切なのですね。

このように、「既習」と「組み合わせ」といった見方を引き出して、解決の見通しをもたせていくことが大切です。

展開を構想

見取りを指導に生かすために（座席表の活用を例に）

子どもの学びを捉えて次の指導に生かしたいと思って「座席表」をよく活用します。でも、うまく指導につなげることができないのです。



あらかじめ想定した考え方を捉えてA、B、Cに○を付けて、簡単なメモを残すようにしています。

個別に支援が必要だな。

ひと工夫！

子どもの考え方を類別して状況を捉えようとしていますね。

隣の子に説明させようかな。

同じ考え同士で考え方を話し合わせよう。

ここでもうひと工夫！
座席表を**作戦盤**にしてみませんか？
・どのように話し合わせるか
・どの考えを取り上げるか
・どのように指名をつなげるか
こんなことを子どもの見取りと一緒に書き込むのはどうでしょう？

この考えは全員に触れさせたいな。ここから取り上げようかな。続きを考えさせるところからスタートさせてみようかな。

活用

情報

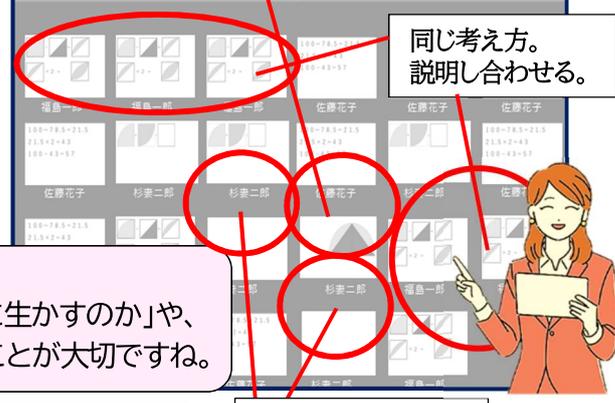
時間がなくて見取ったことを、記録し切れないことがあるのです。

座席表は「書く(記録する)」ことが目的ではありません。見取った子どもの考えを、どのようにコーディネートして、深い学びにつなげていくのかを考える教師の**作戦盤**にしています。

ただ、全員の学びの状況はしっかりと把握しなければなりません。ICTを活用して情報を確実に捉えることも効果的ですよ。

今回は取り上げない。個別に称賛の場をもつ。

【ICT】
・瞬時に全体を俯瞰できる
・教師も子どもも学びの状況が捉えられる
・学びの状況の変化に対応できる
・記録に残すことができる(評価に生かせる)



机間指導にはねらいがあります。捉えた状況を、「どのように次の学習活動に生かすのか」や、「意図的な指名」等、戦略的に考えていくことが大切ですね。

× 机間巡視 → ○ 机間指導

ポイント4 追究・解決<ペアやグループ・学級全体での話し合い>

話し合いは大切だと思うけれど、発言する子ばかりになって、深まっていないと感じています。

<ペアやグループ・学級全体での話し合い> 思いや考えを広げ深めることができるようにするために

- 子どもの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫りましょう。
 - ・ 話し合いの論点や議題の明確化
 - ・ 子どもの考えを引き出し、つなげる支援
 - ・ 問い返しやゆさぶりなどの働きかけ
 - ・ 話し合いに全員を参加させる姿勢 など
- つまずきを取り上げる場合には、その子どもの思いに共感しながら、適切に支援しましょう。
 - ・ 子どもの意見すべてに価値があるという考え
 - ・ 自分の思いや考えなどをうまく伝えられない子どもへの配慮 など

共有
 児童との交流を通して、考えを共有させましょう。
 考えを共有したり比較・検討したりする場の設定
 理由や根拠を基に判断する場の設定

- ・ 目的に応じたグループ編成
- ・ 活動にふさわしい人数設定 など

吟味
 思考過程を可視化しましょう。

- ・ 吹き出し、線囲み、矢印などの使用
- ・ チョークの色の使い分け
- ・ 小黒板の活用 など

子どもの内面を見取り、教師と子どもの対話、子ども同士の対話が重要なですね。

共有 ねらいを明確にした意図ある共有の場の設定

④ 追究・解決

どのような働きかけをすると、深まるのかな。

全体で確認をします。説明したい人？

- A: まず、4分の1の円から三角形を引いて…。
- B: 正方形から4分の1の円を引いて、残りの…。
- C: 4分の1の円を2つ合わせ、正方形の部分…。
- D: 正方形の面積を4倍して円を引くと…。

$$\frac{1}{4} \times 2 = \frac{1}{2}$$

$$100 - 78.5 - 21.5 = 21.5 \times 2 = 43$$

$$100 - 43 = 57$$

$$78.5 + 78.5 - 100 = 57$$

いっぱい考えが出ていい授業になりました。

子どもたちの多様な考えをたくさん紹介することが、いい授業だと思いませんか。

え!
 活発に話し合うことが、深まるということではないのですか。

たくさん考えを出すことが、考えを深めるということではありません。
 大切なのは、ねらいに合う考えを、選んで共有させることです。

本時の共有させたいゴールに向かうために、教師のコーディネートが大切なのです。

ならばかえても求められない **正方形 4分の1の円**

習った図形

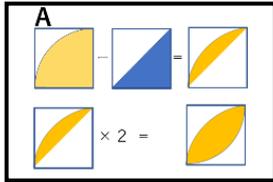
【本時で働かせたい見方・考え方】
既習の図形 組み合わせ

吟味

理由や根拠を基に判断する場の設定

話し合いを深めるには、どうすればいいのですか。

たくさんあった考えから、A、B、Cの3つの考えに選んだ場合で考えてみるね。

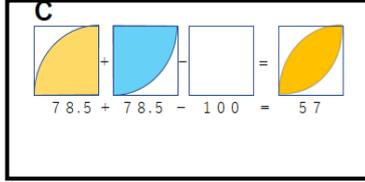


B

$$100 - 78.5 = 21.5$$

$$21.5 \times 2 = 43$$

$$100 - 43 = 57$$



授業は、いろいろな考えを出し合ってから勝負です。

吟味

3つの考えで、共通していることはどんなことですか？【問い返し】

前の時間までと同じように並べ替えて求めているのかな？

並べ替えではなく…

たし算や引き算を使っている。

「たし算や引き算を使っている。」というのはどういうことでしょうか。【問い返し】

公式1つではできない。

組み合わせで考えている。

「組み合わせ」ってどういうことですか。【問い返し】
周りの友達と確認してみましょう。

A、B、Cで使い方は違うけれど、正方形や円など面積が求められる図形を利用して求めている。

本当にA、B、C全部に共通して言えるの？本当に言えるのか、隣の人と話し合ってみましょう。【再生】

本当だ。全部そうだ。

組み合わせで考えればいいんだ。

それでは、この問題も同じ見方の「組み合わせ」で解けるかな。

できるかな？

あ！見えた。

発表した後が大切なのですね。

私だったら、「組み合わせ」というキーワードが出たら、「いい考えだね。」といってすぐにまとめにつなげてしまいます。

飛びつきたくなるけど、待つのが大切なんですね。

大切なキーワードは、「どうということ」と子どもたちにもう一度考えさせるのですね。

考えを深める問い返しをすることが大切なのですね。

考えを深めるための問い返しの例

【事実】「どういことですか」

【方法】「どのように考えたのですか」

【理由】「どうしてそうなるのですか」 など

たくさんのお考えを紹介するのはなく、

- ① 大切な考えに絞る
- ② 繰り返し考えさせることが大切ですね。

問い返しにより考えを深め、全員が納得できるようにすることが、大切なのですね。

ポイント5 まとめ 振り返り・新たな学び

「まとめ」と「振り返り」は分けて指導しているけれど、何を意識したらいいのかな？



○ 「何を学習したか」をまとめましょう。

- 自分の言葉での確認
- （5人グループでの話し合い）
- 振り返りシートを基にした確認
- グループでの話し合い
- 評価（学習日記など）や相互評価活用 など

自分の言葉

○ 新たな学びに目を向けさせましょう。

- 次時につながる気付きや疑問
- 新たな「問い」や「思い・願い」を引き出す教材の提示
- 次時の学習内容の紹介
- 学習したことを活用して新たな問題の紹介 など

自分のよさ

導入、展開、終末と、子どもを中心とした授業づくりが、子どもの学びの質を高めることにもつながるのですね。

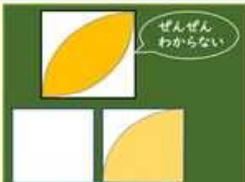


「自分の言葉」を大切にしたまとめ

つい、教師がまとめたくりますが、自分の言葉でまとめることができるように、子どもを信じて任せる等、粘り強く指導していく必要があります。



③ 学習課題・見通し



この色をぬった部分の面積は何cm²かな？



ぜんぜん分からないな。



レモンの形？公式ないよね。

今日のめあては何になるでしょう？

【学習課題】並べ替えても求められない図形の面積は、どのようにすると求められるかな？

教師が予想したまとめ

教師

子ども

まとめ

【まとめ】 面積が求められる図形の組み合わせ方を考えれば、複雑な図形の面積を求めることができる。

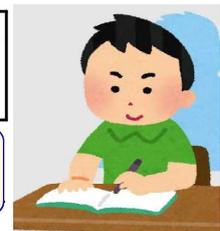
子どもの言葉によるまとめ

習った図形を何回か組み合わせで計算すると、難しい形の面積も求めることができる。



このまとめは、「習った図形」「組み合わせ」などのキーワードを基に、自分の言葉でつくられていることに価値があります。

私は、本時の「まとめ」をする時に、「どんなまとめになるのかな」と投げかけ、子どもから言葉を引き出すようにしています。



自分のよさ

「自分のよさ」を実感し、「学び続ける態度」を育む振り返り

振り返り

自分のよさ

共に学ぶよさ



はじめはぜんぜん分からなかったけど、友達のことを聞いて、面積を求められる図形に着目していけばよいことが分かった。4、5年生で習ったL字型の図形での考え方と同じだと思った。

学び続ける態度

もっと別な図形の組み合わせだったらどうなるか、自主学習で問題を作ってみよう。



ぜんぜん分からないと思ったときでも、求められる図形に着目すれば、どんな組み合わせか見えてくるのですね。自主学習で新しい問題ができたなら紹介してくださいね。

〈A子のノートより〉

わたしは、はじめはぜんぜんわからなかったけれど、BさんやCさんやDさんの考えを聞いて理解できました。これからは、Cさんのように、問題の意味も考えられるようになりたいです。



振り返りの文章の主語は、子ども自身なのですね！学びの主役は、子ども一人一人ということですね。

子ども自身が学びを自覚し、充実感、達成感、有能感等の学びの手応えを感じることができる「振り返り」となるように、次のようなことに気を付けています！

子ども一人一人の振り返りの言葉にコメントを入れ、思いや願いを次時の指導に生かしていきたいと思えます！



- ① 本時のキーワードを、黒板に残すようにしています。
- ② 板書していないことでも、「なるほど」と思ったことをノートに書くように指導しています。
- ③ 参考となる友達の考えに分かりやすい記号を付けるなど、自分の考えと区別して記録するようにしています。
- ④ 「振り返り」の視点が、明確になるように提示しています。
- ⑤ 必要に応じて、考えたこと等の振り返りを累積するようにしています。

【振り返りの視点 例】

- わかったこと、できるようになったこと
- 自分ががんばったこと
- 友達ががんばったこと
- これからの学習や生活に生かしたいこと

「まとめ」と「振り返り」には、それぞれに重要な役割があるのですね。



まとめ

- ◇ 子どもが本時で「何」を学んだか、学習した内容を整理し確認する。
- ◇ 学習課題と正対する。
(学習課題をまとめの整合性を図る。)

振り返り

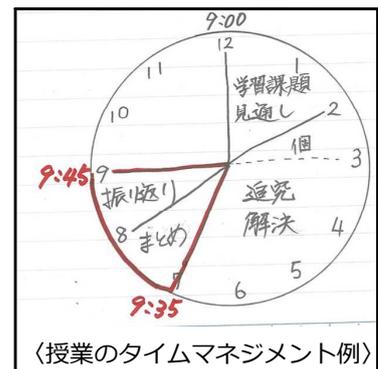
- ◇ 子どもが本時で「どのように」学んだのか、学びの過程を見つめ直す。振り返ることで、**学びを自分事**とする。
- ◇ 主語は、「わたし」になる。

子どもの学びを保障するタイムマネジメント



授業の時間は限られています。授業前にまとめと振り返りに入る時刻を決めておきましょう。そうすることで、まとめと振り返りのための十分な時間の確保につながります。

本誌〈付録〉に、タイムマネジメントシートが掲載されています。必要に応じて、ご活用ください。



4 授業後に「自己マネジメント力」の育成を目指す家庭学習



どのようなことに気を付けて、授業と家庭学習を連動させればよいでしょうか？

家庭学習を充実させるための学校の4つの取組

授業では

新たな学び

学び続ける態度を育てるために

- 新たな学びに目を向けさせましょう。
 - ・ 次時につながる気付きや疑問
 - ・ 新たな「問い」や「思い・願い」を引き出す教材の提示
 - ・ 次時の学習内容の紹介
 - ・ 学習したことを活用できる身近な地域社会の問題の紹介など

まずは授業の中で子どもたちにこれらの思いをもたせていくことが大切です。

できるって楽しいな！
家でも繰り返し練習
してみよう。

もし、〇〇だったら、どうなるの
かな？ 家でも調べてみよう。

このときは、一体どうなるんだ
ろう？自分で解いてみよう。

「新たな学び」を促すために

- 学びの連続性を大切にします。
 - ・ 「課題→追究→解決→新たな課題→追究…」という学習の過程
 - ・ 「授業→家庭学習→(朝の学習)→授業…」という学習サイクル
- 「分からないことに気付く」「新たに追究・解決したいことが見つかる」ことは、価値あることです。

つまり…

「学習したこと」を自覚させ、
自分のよさ、共に学ぶよさを意
識させることが大切なのです。

導入、展開、終末と、子どもを
中心とした授業づくりが、子
どもの学びの質を高めること
につながるのです。

取組② 授業と家庭学習をつなげます。

- 学習内容に応じて、宿題(復習、予習)を効果的に活用した授業に努めています。
- 授業で学習したことを活用できる場面や方法を紹介していきます。

子どもの意識を高めた上で、家庭学習との連動を図ることが大切です。活用場面を確保することで、より学びが確かなものになっていきます。

学校全体では

取組① 共通理解を図り指導します。

- 学年に応じた「家庭学習の手引き」などを作成するとともに、全教員が共通理解を図って指導していきます。
- 宿題の内容や量について、教員間で話し合い、調整していきます。

取組③ 内容・方法を指導します。

- 学習内容や方法、時間、ノートの使い方などを示した手引きなどを継続的に活用し、学習の仕方を指導していきます。
- 「調べ、考え、書く」を中心とした活用型の宿題にも取り組ませています。

全教職員が同じ方向性を向き、どのような内容・方法で、どのような力を育てていくのかを共通理解した上で取り組むことが大切です。「手引き」の作成は、子どもたちが自分で学ぶ拠り所になります。

家庭とは

取組④ 協力・連携体制を築きます。

- 地区の小学校同士や小中学校間で、家庭学習の内容や方法などについて共通理解を図り、取り組んでいきます。
- お子さんや保護者の、家庭学習に関する悩みや要望を把握し、相談する機会を設けていきます。

子どもの望ましい学習習慣の確立、そして、よりよい成長のため、家庭との連携を密に取ることが有効です。

誘惑が多い環境の中で、家庭学習(宿題+自主学習)に取り組むために「R-PCDAサイクル」を通して自分で学習や生活を改善する力、つまり「自己マネジメント力」が必要になるのです。



Research 自分を知る

自分の課題を客観的にとらえる。

- 家庭での学習や生活の問題点、課題などに**気付かせる機会**を設ける。
- 学習や生活の振り返りができるチェックシートなどを活用し、**自己診断**できるようにする。など

学習時間が少したりないな。

(学習時間)

漢字や計算は得意だけれど、文章問題が苦手だな。

自主学習ノートを1日1ページやっているけれど、なかなか成果が出ないな。

(学習方法)



つつい寝るのが遅くなってしまうから、授業に集中できないな。帰ってから夕食までの時間が、もったいないな。

Action 見直す

学習の内容・方法を見直し、修正する。

- **改善のための目標**を明確にする機会を設ける。
- 新たな目標を基にした計画を確認し、**励ます**。など



Plan 計画する

自分の課題にそった目標や計画を立てる。

- 学習や生活の**目標、計画を立てる機会**を設ける。
- 目標のポイントを掲示するなど、**常に意識**するよう促す。など

自主学習の時間を、平日は〇〇分、休日は〇〇分増やしてみよう。

もっと難しい問題にも挑戦してみよう。

これからも続けていこう。

夕食前に、計画をしてみるよいか。

毎日〇〇分学習するぞ。

毎日、文章問題に挑戦するぞ。

国文を書く内容を整理しよう。

夕食前に、少しでも学習するようにしよう。



学習内容が難しくなってきたので、〇〇分では終わらない日が多かったな。

毎日、文章問題に取り組んでみたら、テストでもできるようになってきたぞ。

説明文を書くと、内容が分かるようになるな。

やっぱり夕食前に少しでも学習すると、気持ちに余裕が出るな。

さあ、学習の時間だ。今日も、〇〇分頑張るぞ。

計画実施表に、「文章問題が思った以上にできた」と書こう。

今日は、〇〇についての説明文を書くぞ。

部活動で疲れたけれど、頑張って学習するぞ。

- これまでの学習を**振り返り**、成果と課題を明らかにする機会を設ける。
- 成果を上げた取組を**確認**したり、課題を**分析**したりするよう促す。など

- 一定期間の実施状況を**記録**できる「計画実施表」などを準備する。
- **毎日**、実行状況のコメントを書くよう促す。など

Check 確かめる

学習の結果や取組を振り返り、確かめる。

Do 自ら学習する

計画にそって主体的に学習する。

◆◆ 教員の学び合い ◆◆



授業後は、どのようなことを大切にして振り返ればよいのでしょうか？

👁️ 授業後に

授業での子どもの姿やうまくいったこと、うまくいかなかったことなどを話題にしましょう。

今日の授業はどうでしたか？

K子さんの伝えたいことがよく分からなくて生かせず、Y男さんの考えもうまくつなげられませんでした。

一人一人の子どもを見取って、大切にしようとしているところが素晴らしいです。反省点は、次の授業で生かしたいですね。では、授業の大切なポイントなどを、詳しく見てみましょう。

教えるは学ぶの半ばなり。
(書経)

日常での教員の学び合い

日頃から、互見授業※)を行い、授業の考え方や工夫などについて共有したり、授業の振り返りや話し合ったりすることは、最も身近な「研修」です。

また、週案の授業の反省や気付いたことなどの記録の積み重ねも重要です。

※ 互見授業は、教員が校内でお互いの授業を公開し合い、指導の工夫などについて学び合い、授業力の向上を図る研修



「導入の場面だけ」でも、「まとめの場面だけ」でも互いの授業を見合うことは貴重な「研修」の機会となります。



気軽に集まって話ができる場所、雰囲気があるといいですね。先生方の学校はいかがですか？

「授業スタンダード」 チェックシート

年月日() 校時 年 組 科

このチェックシートは、「授業スタンダード」を基に、先生方が日々の授業を振り返る際に活用します。「自己の重点項目を決める」「授業参観の視点として使う」「工夫して活用(どうい)

<校内研修の活性化のために>

番号	項目	チェック
1	授業研究会に主体的に参加している。	4 3 2 1
2	教科や学年の枠を越えて、学び合っている。	4 3 2 1
3	互見授業を行うなど、日常的に授業研究をしている。	4 3 2 1
4	外部講師の助言や校外研修の成果を共有し、日々の授業に生かしている。	4 3 2 1
5	「授業スタンダード」を積極的に活用している。	4 3 2 1

<授業の充実のために>

番号	項目	チェック
1	単元(題材)の構想を明確にもっている。	4 3
2	本時のねらいを明確にもっている。	4 3
3	授業の約束事や学習に向かう心構えを指導している。	4 3 2 1
4	子どもの「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を設定している。	4 3
5	子ども一人一人に追究・解決の計画や見通しをもたせている。	4 3
6	机間指導で子どもを見取り、適切に支援している。	4 3
7	ペア学習やグループ学習を取り入れる目的を明確にもっている。	4 3
8	本時のねらいに迫るように話し合いをコーディネートしている。	4 3
9	本時で学習したことを明確にし、振り返りを工夫している。	4 3
10	新たな学びに目を向けさせる終末になっている。	4 3
11	授業の流れが分かり、構造的な板書になっている。	4 3
12	意図された発問をし、	4 3
13	を継続的に	4 3

私の授業プラス日記 No. _____

上手くいったことを書き留めてみませんか。

- 自分の授業
- 参観した授業



月 日 (曜)	教科等名	授業を振り返って、(上手くいったこと等)
月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネ <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り
月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネ <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り

「チェックシート」や「授業プラス日記」などを活用すると、自分の授業や参観した授業の記録・振り返りが手軽にできます。



□■ 1つ上の週案活用術 ■□



週案はどのようにすると、授業改善や授業の振り返りに活かせるのでしょうか？

週案を、どのように活用していますか？

時数管理や週の反省を書くだけでは、もったいないですよ。
「週案」は「わたしの学びの記録」です。



- 時数管理
- 週の計画
- 週の反省
- ...
- ...

週案

授業づくりのために、「授業レシピシート」を活用して挟めるといふアイデアはどうか？簡単に作れるシートだから、これを積み重ねていくと、授業力の向上につながりそうだよ。



「授業プラス日記」も活用できそうだね。自分の授業の振り返りだけでなく、他の先生の授業を参観した時の記録にも役立つそうだね。



私の授業レシピシート No. [] 月 日 () 校時

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して
～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい [] 科 第 学年 [] / []

③ 学習課題・見通し

④ 追究・解決

② まとめ

振り返り

教師の思い・願い

※ この2つのシートは「県北教育事務所」のHPからダウンロード可能です。ぜひ御活用ください。

私の授業プラス日記 No. _____

上手くいったことを書き留めてみませんか。

- 自分の授業
- 参観した授業

月 日 (曜)	教科等名	授業を振り返って (上手くいったこと等)	
月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題	
		<input type="checkbox"/> コーディネート	
		<input type="checkbox"/> まとめ	
		<input type="checkbox"/> 振り返り	
月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題	
		<input type="checkbox"/> コーディネート	
		<input type="checkbox"/> まとめ	
		<input type="checkbox"/> 振り返り	



5 教師として身に付けたい指導技術

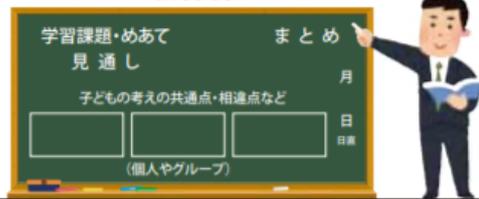
◆◆ 板書 ◆◆

板書

板書計画を立てましょう。

- 授業の流れが明確になり、指導のポイントがはっきりします。
- 子どもの思考の流れを想定することにより、発問や活動も見えてきます。
- ノート指導にも生かすことができます。

板書例

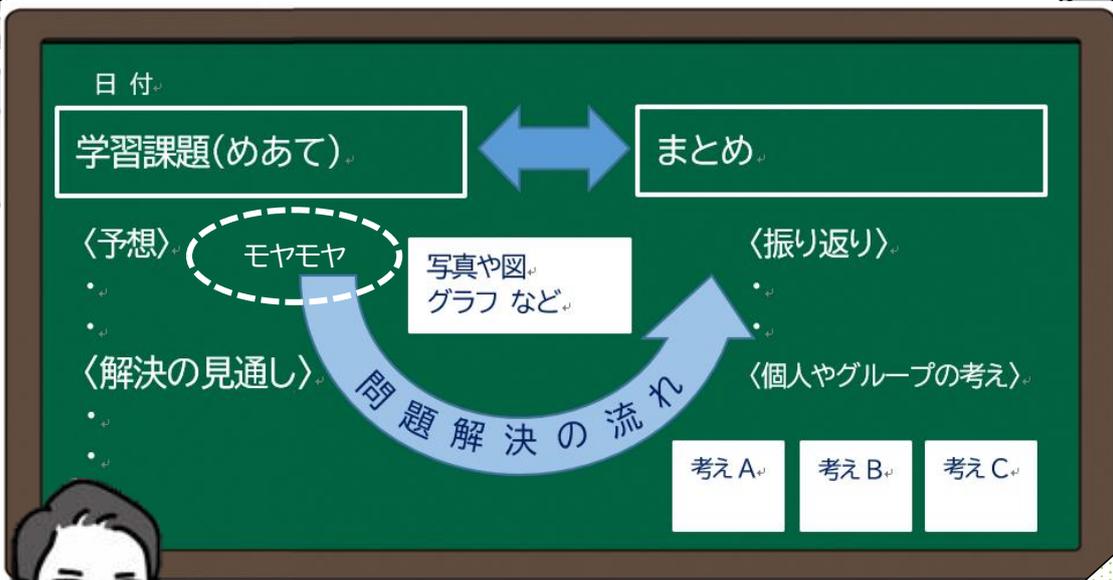


板書のポイント	具体的な内容
○ 見やすく、分かりやすい。	□ 文字だけではなく、図、表、写真、楽譜などを効果的に活用する。 □ 黒板やICT(電子黒板など)のそれぞれのよさを生かし、効果的に活用する。
○ 授業の流れが分かる。	□ 学習課題→予想→子どもの考え→話合いの内容→まとめなど、一連の流れが分かるようにする。
○ 見直しができる。	□ 大切なポイントは、吹き出しなどで強調する。
○ 思考力を育てる。	□ 線囲み、矢印などを用いて板書事項を比較、分類、整理するなどして構造的な板書に努める。
○ 子どもと共につくる。	□ 子どもの発言を板書に反映させる。 □ 「名札」(ネームプレート)を黒板に貼るなど、一人一人の考えや立場を明確にする。

学習の流れが分かる構造的な板書例

「めあて」と「まとめ」には整合性をもたせていきます。本時で「何がわかったか」の着地点が「まとめ」となります。

学習前の子どものすっきりしないモヤモヤした気持ちを引き出し、書いておくことで、振り返りの時に、子ども自身に自己の変容を感じ取らせやすくなります。



「板書を見ると1時間の授業の流れが分かる」といいます。
学びの足跡をしっかりと残し、教師も子どもも1時間の学習を振り返ることができるような構造的な板書を作成することが大切です。

考えを視覚的に示すことは、「共通点」や「相違点」を捉えやすくなり、話合いの焦点化が図られます。

◆◆ ノート指導 ◆◆

ノート指導のポイント	具体的な内容
○ 学習した内容を確実に記録させる。	<input type="checkbox"/> 学習の月日、本時の学習課題、自分や友達の考え、学習のまとめを書かせる。 <input type="checkbox"/> 学習課題やまとめ、重要事項などは、色鉛筆などを使って書いたり囲んだりして、振り返ることができるようにする。
○ 自分の思いや考えなどを分かりやすく記録させる。	<input type="checkbox"/> 学習課題から解決、新たな「問い」や「思い・願い」まで「流れ」させる。 <input type="checkbox"/> 図や表、吹き出しなどを、効果的に用いることができるように指導する。 <input type="checkbox"/> 板書だけでなく、自分の考えや友達の考えなども書き留めさせる。 <input type="checkbox"/> 考えるためのメモや計算などは、消さず「自分の言葉」で書くよう指導する。 <input type="checkbox"/> まとめの観点を与え、発達の段階に応じたまとめさせる。
※ その他の留意事項	<input type="checkbox"/> 定期的にノート提出させ、取組のよさを認め、アドバイスを与えたりする。 <input type="checkbox"/> ワークシートだけに頼らず、自分でノートにまとめる力、自分のノートをつくり上げる力を育てていく。

流れ

自分の言葉

本時の課題から、解決、新たな問いまでの一連の流れを意識し、ノートに記録できるようにすることが大切です。

「なるほど！」と思ったことや友達の考えで参考になったことなど、まとめや感想(振り返り)につながる言葉を書き留めておかせることは、有効ですね。

板書をそのまま写すのではなく、自分の言葉で書かせることがポイントです。1人1台端末やノートの活用場面を考えて、最大限の効果が出るようにしたいですね。「書くこと」は「考えること」です。

◆◆ 机間指導 ◆◆

机間指導

机間指導のポイント	具体的な内容
○ 少人数教育のよさを生かして、子ども一人一人の学習の様子を見取る。	<input type="checkbox"/> ノートやワークシートを「観る」。 <input type="checkbox"/> 学習の進め方や理解の実態を「診る」。 <input type="checkbox"/> 学びの様子を把握して、個に応じて「見る」。
○ 少人数教育のよさを生かして、子ども一人一人を適切に評価する。	<input type="checkbox"/> つまずきのある子どもには、具体的に支援する。 <input type="checkbox"/> 学習の深まりのみられる子どもには、学習の支援者としての役割をもたせたり、別の立場から考えさせたりする。
○ ペアやグループでの話合いの状況を見取る。	<input type="checkbox"/> 友達との関わりを「観る」。 <input type="checkbox"/> 学習の進め方や理解の実態及び変容などを「診る」。 <input type="checkbox"/> ペアやグループの学びに応じて「見る」。

みる について

- 授業の様子、そのときの反応や、学級全体の傾向を知るとき
- ノートへの記入状況や課題への取組状況など視点を決めて把握するとき
- 学習の仕方や理解の方向は確かであるかを把握するとき
- 「見る」で子どものつまずきを丁寧に捉え、理解や活動を促すとき

これらの視点で机間指導をすることが大切です。



机間指導

見取りの目的は
「状況把握」と「支援へ向けた戦略構想」



概観



子どもたちの思いを高ませた上で、そのまま問題解決につなげていきたいですね。

見る

※ 誤解等が多い場合は、発問や指示を改める。

このままGO

何を考えればいいのか、子どもたちはわかっているかな？
指示が通っているかな？

観察・チェック



子どもたちが見通しをもてない状態では、主体的な学習は生まれません。

観る

※ 活動が停滞している場合は、再度指示を出し軌道修正を図る。

このままGO

指示通り、グループ活動が進められているかな？

診断



診る

- ・ 着目するところはズレていないかな。
- ・ 自分の考えをもっているかな。
- ・ どこで悩んでいるのかな。
- ・ どこでつまづいているかな。

友達としっかり話し合えているかな？

〇〇まではできているな。
どんな言葉をかければ次の段階に進めるかな？

状況把握



※ 子どもたちの状況を把握するのに、座席表やカルテを使っている先生もいますね。授業後の評価にも使えるので、有効です。

指導支援



戦略的な構想
(意図的指名)

看る

※ 捉えた実態をもとに、その後の展開を構想します。

- ・ 誰の考えを取り上げるか。
- ・ 誰と誰を関わらせるか。
- ・ どのような順序で取り上げるか。

個に寄り添い、つまづきを丁寧に捉える。
→ 個に応じて理解や活動を促す。



◆◆ 発問 ◆◆

発問

発問のポイント	具体的な内容
<input type="checkbox"/> 「問い」や「思い・願い」を引き出す。 <input type="checkbox"/> 学習課題を明確にする。	<input type="checkbox"/> 子どもの既存概念をゆさぶる資料や事象提示などと結び付ける。 <input type="checkbox"/> 誘い込むような口調で具体的に発問し、興味・関心をもたせたり、疑問、驚き、矛盾、憧れを感じさせたりする。
<input type="checkbox"/> 課題の追究・解決の見通しをもたせたり。 <input type="checkbox"/> 課題の追究・解決に取り組ませる。 <input type="checkbox"/> 課題の追究・解決をより確かなものにする。	<input type="checkbox"/> 中心発問を精選し、できるだけ少ない発問にする。 <input type="checkbox"/> 子どもの考えを広げ深めるために問い返しやゆさぶりなどの働きかけをする。 <input type="checkbox"/> 多様な考えを比較、検討、選択、統合などするための発問をする。
<input type="checkbox"/> ねらいと対応させてまとめる。 <input type="checkbox"/> 新たな学びへの意欲付けを図る。	<input type="checkbox"/> ねらいに即したまとめを行うとともに、分かったことやできるようになったことを自覚させる。 <input type="checkbox"/> 次時への学習意欲を喚起する。
※ その他の留意事項	<input type="checkbox"/> 発問に対する応答を予想しておく。 <input type="checkbox"/> 発問の意図と内容を明確にし、1回で子どもに伝わるようにする。 <input type="checkbox"/> 発達の段階にあった適切な言葉を用いる。 <input type="checkbox"/> 子どもたちのよいモデルとなる話し方をする。 <input type="checkbox"/> 話す速さ、言葉の調子と抑揚、問の取り方、豊かな表情を意識する。

引き出す

引き出したいのは、ワクワク感！
 どんな導入にすれば、子どもたちのワクワク感を引き出せるか…。
 授業の方向性を決め、子どもたちの学習意欲を高める、ここが教師の腕の見せ所です。

- 具体物を提示しましょう。
 - ・ 写真や図表、動画、楽譜、絵、デジタル教科書
 - ・ 資料の段階的な提示
 - ・ 複数の資料の比較・対比 など
- 既習事項を振り返りましょう。
 - ・ 前時までのノートや掲示物 など
- 実演を取り入れましょう。
 - ・ 教師による実験などの実演・演示
 - ・ 子ども自身が試す活動 など
- 子どもとの対話を大切にしましょう。
 - ・ 生活経験や既習事項を想起させる対話 など

ワクワク感

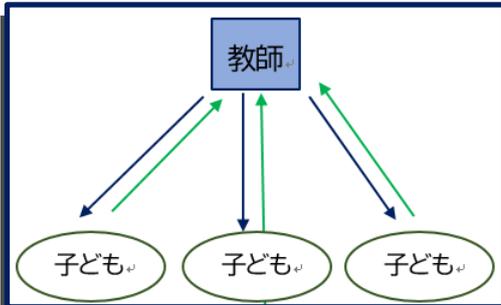
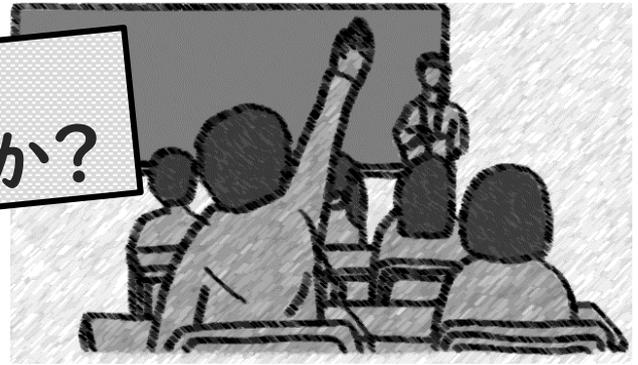
今日は何を入れよう？

同じ「具体物の提示」でも

- ・ 一部分だけ隠して提示するのか。
- ・ 最初に出すのか、途中で出すのか。
- ・ シルエットを出して想像をふくらませるのか…。

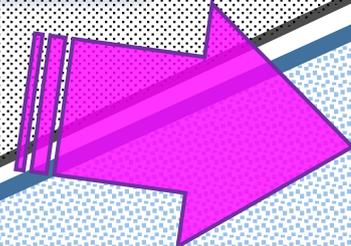
提示の仕方でも、学習効果を高めることができます。

教師と子どもの 1対1になっていませんか？



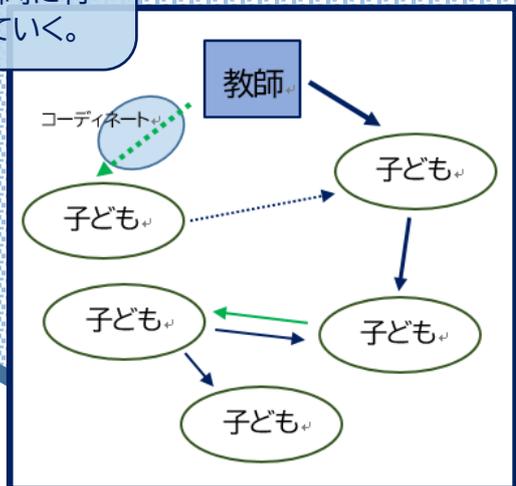
【ピンポン型】

教師が指名し、子どもに答えを発表させる1問1答のやり取りの授業。教師に都合のよい意見や考えだけが取り上げられ、一部分の子どもの考えで授業が進んでいく可能性が高い。



【バレーボール型】

教師の投げかけた発問を子どもが受け取り、円陣パスのようにつなげていく授業。教師はその価値を瞬時に判断し、本時のねらいに迫るようコーディネートしていく。



□ 共有させるための教師の働きかけの例

- 【予想】「○さんの式の意味を説明できますか」
「○さんの考えの続きが言えますか」
- 【再生】「○さんの説明をもう一度言えますか」
- 【換言】「○さんの考えを別の言い方でも言えますか」
- 【要約】「○さんの考えを簡単に言えますか」
- 【共感】「○さんの気持ちが分かりますか」
- 【発見】「○さんの考えのよいところはどこですか」
- 【補助】「○さんの考えのヒントが言えますか」

□ 考えを深めるための問い返しの例

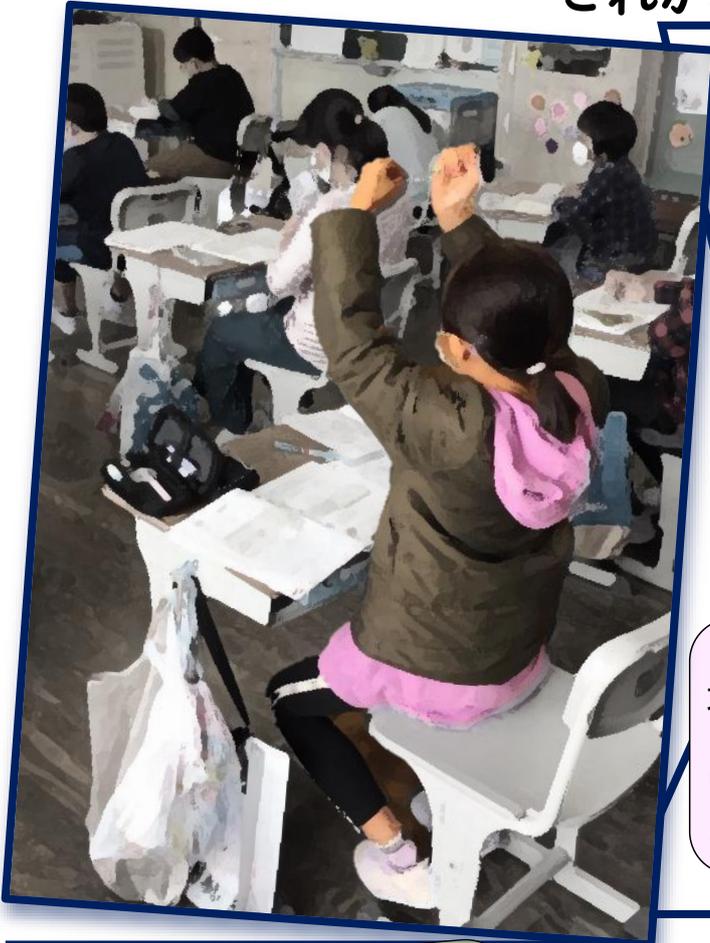
- 【事実】「どういことですか」
- 【方法】「どのように考えたのですか」
- 【理由】「どうしてそうなるのですか」 など



・ボールを落とさないように！
・大切に！
・みんなの力でつなげていく！



－ これが私のスタンダード －



先生！これ、授業中ですよね？
なんか、子どもが両手を上に上げてガッツポーズをしているように見えるのですけれど…。



これは、授業の「振り返り」の場面です。
この姿に、今日の学びの振り返りを楽しみにしている気持ちがとてもよく表れていますね。



私もこんな風に、子どもたちが「自分の学習を振り返ること」を楽しみをするような授業をしてみたいなあ。



「まとめ」と「振り返り」は、もちろん子どもたちにとって大切な時間ですが、私たち教師にとっても大切な時間なのですよ。



振り返り
＝
自己を見つめる

子どもも教師も

【子ども】

- 「まとめ」と「振り返り」は分ける。
- 自分の言葉で書かせる。
- 自分の学びを自覚させる。

【教師】

- 振り返りには新たな「気付き」が書かれていることがある。



- ・ 他の子どもたちに広げる。
- ・ 次の学習、他教科につなげる。

※ 振り返りの時間は、子どもたちが分かっているかどうかを知るために、**絶対に必要。**



必ず **ほめる!**
がんばった、できるよう
になった姿を価値付け

全校で! 取り組む
分析、課題

そして、大切なのは、
これを一人でやるので
はなく、組織として、継
続していくこと!

続ける!
大事なことをしっかり

つなげる!
子ども同士、学習

不易

早く子どもたちと
一緒に、授業をした
くなりました。

福島県で頑張っているすべての先生方のための
**ふくしまの
「授業スタンダード」**
～「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、
子どもたちの資質・能力の育成を目指す～

「スタンダード」というだ
けあって、授業のエキスが
ギュッとここに詰められて
いるんですね。

そして、この授業スタ
ンダードも、もう一度読
み直しをしたくなって
きました。

授業スタンダードを読ん
で、お気に入りの言葉は見
つかりましたか?

「子どもを中心とし
た授業づくり」という言
葉です。

私は今まで表面的にしか捉
えていなかったと思います。
「子ども中心」「子どもが主役」
の授業づくりについて、もっ
ともっと考えていきたいと思
います。

「子どもの意見すべ
てに価値がある」という
言葉です。

誤答やつまずきも含め、全
ての子どもを大切にした授業
づくりが大切なのだと思っ
ていました。

私は「日常での教員の
学び合い」がいいなあ。
子どもたちのために、
これからも、みんなで頑
張っていきましょう。

あっ、校長先生～!

どの先生にも、大事にしたい
言葉があるんですね!
私も言葉を大切に、支えにし
ながら、私なりのスタンダード
をつくっていききたいな…。



授業は、子どもたちにとって
かけがえのない時間



効果的にICTを駆使する

ちょっとした変化も見逃さない眼



チョークに魂を込める



授業のプロとして…



成長できる喜び



資料編



同僚性、団結力



指導案は、単元づくり・授業づくりの設計図 ～子どもたちの心が動き、瞳が輝く授業のために～



第○学年 ○○科学習指導案

指導者：□□ □□

場所：○年△組 教室

1 単元名 (題材名)

【知識及び技能】、【思考力、判断力、表現力等】については、基本的に文末を、「～できる。」として示す。

2 単元の目標

- **【知識及び技能】**
- **【思考力、判断力、表現力等】**
- **【学びに向かう力、人間性等】**

【学びに向かう力、人間性等】については、基本的に文末を「～とする。」として示す。



「単元の目標」と「単元の評価規準」の観点名に、着目してみましょう。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ～している。	【知識・技能】、【思考力・判断力・表現力等】については、基本的に文末を、「～している。」として示す。	【主体的に学習に取り組む態度】については、基本的に文末を「～しようとしている。」として示す。
②		

4 単元の構想



この単元に関係があることに、絞って書けばいいのですね。

教材観、児童(生徒)観、指導観について書きます。この単元を通して、学びが深まった子どもの姿を具体的に書くことが大切です!

この単元の系統性やを確認、指導内容に関するレディネスや学習状況等を捉えて、より具体的にしていきたいと思います。



5 単元の指導計画・評価計画



時	ねらい	学習活動	知	思	態	評価規準(評価方法)
8	小数の表し方と仕組み	小数の表し方と仕		○		○ 0.1 のいくつ分に着目し、小数第一位どうしの減法計算の仕方を整数に帰着し考え、説明している。(観察、ノート)

評価には、「指導に生かす」と「記録に残す」という二つの側面があります。計画的に位置付けます。

単元の指導計画にそって、評価規準を具体的にしながら位置付けていきましょう。

6 本時の目標

～について(学習内容)～により(手立て)、～(目指す子どもの姿)にすることができる。

7 学習過程 (例 小3算数)

学習活動・内容	時	○指導上の留意点 ※評価(方法)
Ⅰ 学習課題をつかむ		
①(め) 本時のまとめをする。		どんなまとめと振り返りになるのか、より具体的にイメージできるかが勝負です。TとCで具体化しておくといいですね。
②(ま) 本時の振り返りをする。		言葉でまとめるようにする。 ※ ～できる。(観察、ノート等)
「まとめ・振り返り」 T: 黒板や自分のノートを見て、どんな見方や考え方をしたら、どんなことが分かったかな。 C: 小数の引き算も0.1をもとにしたら、整数の引き算と同じようにできました。 T: 友達の考えを聞いたり、説明し合ったりしながら、みんなで課題を解決できたね。 C: ○○さんの説明を聞いたら、小数を0.1の何個分とみればいいことが分かりました。		

評価規準と本時の目標、課題(めあて)、評価は全部つながっているってことですね。

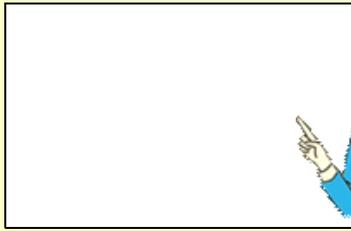


**主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して
～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～**

① 本時のねらい [科 第 学年「 」 /]

[Blank area for lesson objectives]

③ 学習課題・見通し



[Blank area for learning tasks and overview with student icons and question marks]

[学習課題]

④ 追究・解決



[Blank area for inquiry and problem-solving with student icons and question marks]

(ゆさぶり、切り返しの発問)

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

[まとめ]

振り返り



[Blank area for reflection with student icons]

教師の思い・願い



[Blank area for teacher's thoughts and wishes]

「私の授業レシピシート」解説

「私の授業レシピシート」

1時間の授業を構想するシートです。
様々な場面で活用することができます。
QRコードからお入りください。

〈活用例〉

- ・授業づくり
- ・授業の振り返り
- ・授業参観の記録 等



ゴールからの授業づくりを意識できるよう、
流れに沿った授業づくりの手順を示しました。

- ① 本時のねらい
- ② ゴールにおける子どもの姿
- ③ 学習課題・見通し
- ④ 追究・解決



本時で「何を学ばせるのか」は、学習指導要領で必ず確認します。

POINT

「まとめ」と「振り返り」

「まとめ」と「振り返り」には、それぞれねらいがあります。
各教科等、本時の「まとめ」と「振り返り」がどのようになるか、具体的な言葉・姿としてイメージします。

【まとめ】

◇何を学んだか
→ めあてとの整合

【振り返り】

◇どのように学んだか
→ 学びの過程



「本時で目指すゴールの姿」を想定します。

「ゴールからの授業構想」

子どもの実態を受け、教師が本時1時間をかけて、どのような姿を目指していくのかを明確にもつことが大切です。

教師の「子ども観」「教材観」「指導観」が凝縮した形で書かれる重要な部分となります。



主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して
～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

【社会科 小学校 第3学年「火事からくらしを守る」 1/6】

① 本時のねらい
資料をもとに、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てる活動を通して、火災から人々の安全を守る関係機関の協力体制について追究する意欲をもたせる。

③ 学習課題・見通し
火事が起きた時、どんな人が働いているのかな？
消防士や警察官じゃないかな？
では、この周りにはどんな人がいるのだろうか？
交通整理をする人がいるんじゃないかな？
テレビ局や新聞社の人もいるかもしれないな。
水道局の人がかかっているんだね。
テレビ局のヘリコプターもかかっているよ。
火事の時にはみんな集まらないといけないのかな？
火事の時にはどうやって役割分担しているのかな？
ずいぶんたくさんのかかわっているんだね。

【まとめ】火事の際には、消防士や警察などの多くの人が、人々の安全を守るために協力している。

振り返り
火事の現場では消防士とか警察しかいないと思っていたけれど、多くのかかわっているのを知ってびっくりしました。
〇〇君が協力しているのを見て、私も協力したいなと思いました。
みんなが協力して早く火を消すことができそうだな。火事の通報があったから、早く消すまでのくらの時間がかかるといいますか？
教師の思い・願い
火事発生時に現場にかかっているのは消防士と考えている児童が多いだろう。実際は、救急車や水道局など関係機関の協力によって、火災から人々の命や安全が守られている。関係機関の協力体制」に目を向けさせ、単元を通して追究する学習意欲を促していきたい。

前時（前単元）、次時（次単元）とのつながりを含め、本時の位置付けをとり、構想を練ることが大切です。

めあてとまとめの整合性を図ります。

子どもにとって「学びがい」を感じる振り返りにしていくことが大切です。

本時で「振り返らせたい言葉」をイメージします。

【振り返りの視点】(例)

- ・わかったこと、できるようになったこと
- ・自分でがんばったこと
- ・友達ががんばったこと
- ・これからの学習や生活で生かしたいこと

私の授業プラス日記 No. _____



上手くいったことを書き留めてみませんか。
 自分の授業
 参観した授業



	月 日 (曜)	教科等名	授業を振り返って (上手くいったこと等)	
1	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
2	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
3	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
4	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
5	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	

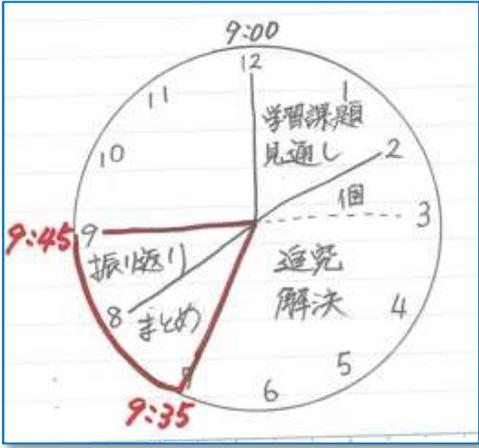
私の授業を支える時間ータイムマネジメントー



あなたの授業の「時間の計画」を立ててみませんか。

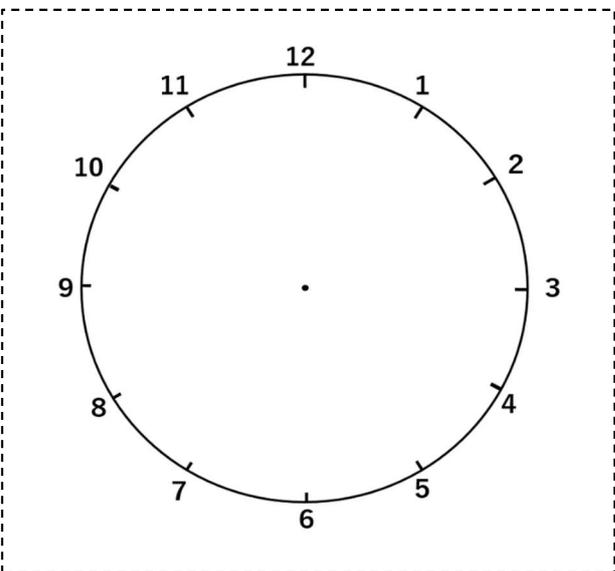
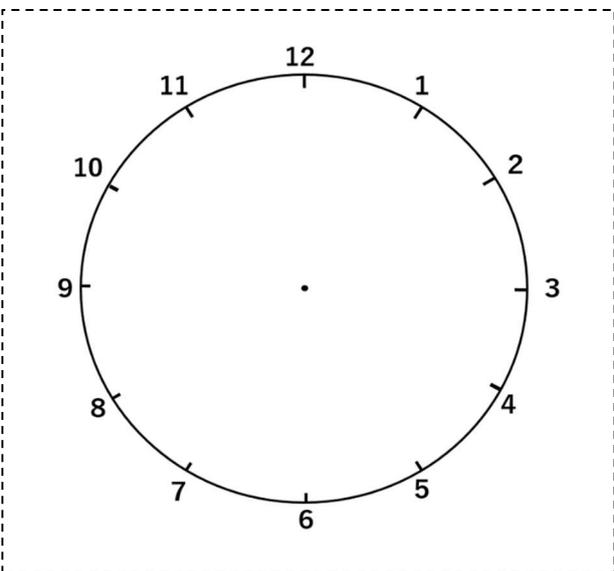
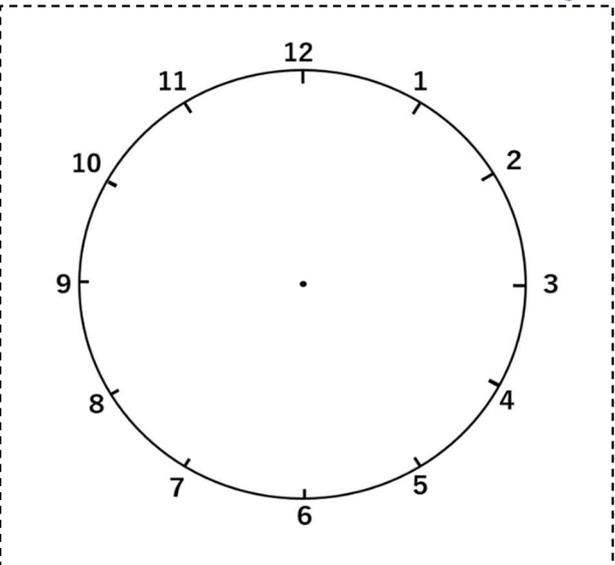
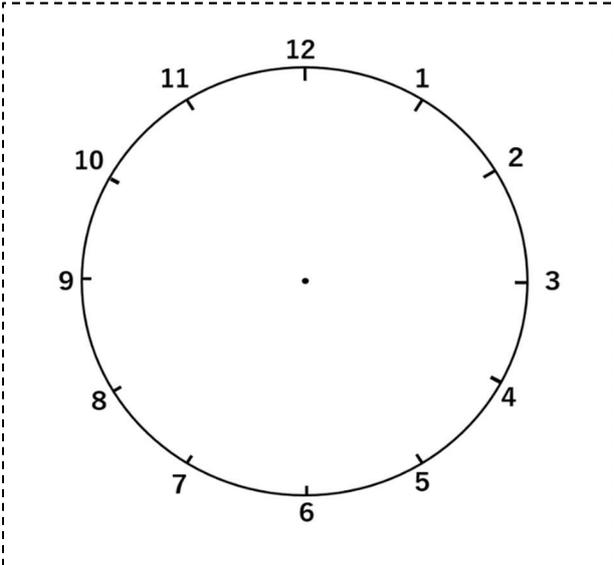
- 学習課題・見直し
- 追究・解決
- まとめ
- 振り返り

私は、時計の中に実際に書いて、見直しをもつようになっています。「まとめ」と「振り返り」は欠かせないので、**赤で書いて特に意識**するようにしています。



【授業のタイムマネジメント例】

コピーをして、切り取ってから書き込みましょう。教材研究ノートや指導案に貼ったり、教科書にクリップでとめたりする等、あなたのアイデアで活用してみませんか。



— 私が選ぶ「私の授業を支える言葉」 —

『授業スタンダード』のどの「言葉」が、あなたの心に響いていますか。



福島県で頑張っているすべての先生方のための

ふくしまの

授業

対
もた

この言葉を選んだ理由は…

P. _____



この言葉を選んだ理由は…

P. _____



使い方

- ◎ 課題意識をもっているところから活用してください。 P12
【授業前に】【授業に向かう途中で】【授業の最後は】【授業後に】……P12
- ◎ 同僚とともに授業づくりや授業の振り返りに活用してください。 P7
【導入】【展開】【終末】【指導技術(板書、問題指導、発問、ノート指導)】……P3~6
【授業の充実のために】【校内研修の活性化のために】……P7

平成29年4月
福島県教育委員会

これが私のスタンダード

私の授業を支える言葉集(索引)



どんな言葉が気になりますか。気になるところから、お読みください。



私は、「全員が」という言葉が気になります！

私は、「原動力」という言葉が気になるな。



段 階		取り上げている 「授業を支える言葉」	掲載ページ
授業の基盤は	ー私の授業を支える言葉ー 主体的な学習を支える基盤づくり	① よさを見取って ② 生徒を尊敬 ③ 学習集団づくり ④ ユニバーサルデザイン	P. 2 P. 3 P. 4 P. 6
授業前に	ポイント1 単元をつくる 本時の授業をつくる	⑤ 全体を見通した ⑥ 重点(軽重) ⑦ 位置付け ⑧ 具体的な姿	P.10 P.10 P.11 P.11
導 入	ポイント2 教材との出会い 学習課題の把握	⑨ 原動力 ⑩ 焦点化	P.12 P.14
展 開	ポイント3 追究・解決 〈計画・方向付け・見通し〉 〈個での追究・解決〉	⑪ 見通し ⑫ 展開を構想	P.16 P.17
	ポイント4 追究・解決 〈ペアやグループ ・学級全体での話合い〉	⑬ 共有 ⑭ 吟味	P.18 P.19
終 末	ポイント5 まとめ 振り返り・新たな学び	⑮ 自分の言葉 ⑯ 自分のよさ	P.20 P.21
授業後に	◇教員の学び合い ◇教師として身に付けたい指導技術	⑰ 自己マネジメント ⑱ 互見授業 ⑲ 週案 ⑳ 授業の流れ ㉑ 流れ ㉒ 自分の言葉 ㉓ みる ㉔ 引き出す	P.23 P.24 P.24 P.26 P.27 P.27 P.28 P.30

